

園長だより

第一号
平成二十八年七月

「あつち」

竹鼻保育園園長 川出昭順

梅雨の候、うっとうしい日が続きます。子ども達は天気に関係なく、元氣そのものです。

園長に就任して二年三ヶ月ほど経ちました。最近やつと余裕が出来、みなさまに何を発信したらいいのか、少しづつまとまってきました。私は竹鼻別院の責任者（輪番）でもありますので、仏教の教えを発信したいと思えます。仏教に対する思いを一旦捨ててください。一般に伝わっている仏教は、本当の仏教と似てもつかない代物です。仏教の先入観を捨てて聞いてください。

子ども達を見ていると、いろいろの発見があります。特に思うのが、男の子女の子が手をつないで移動することです。子ども達はほとんど相手を選びません。ところが小学校へ入ると一変します。ガキ大将が女と手をつないでいると囃し立っています。男女の区別が明確になります。しかし、保育園においては全くそのようなことはありません。更に、障がいを持っている子に対しても全く差別はありません。むしろ困っている子に対して気軽に手を差し伸べています。素晴らしい姿です。こんな子ども達を見ていると、こちらが反省させられます。

大人の世界はどうでしょう。厄介です。子ども達の純

粋な心を私達ももっていたはずですが、小学校ぐらいからどこかへ行ってしまう。大人になり親になると優れていることを求め、劣っていることを嫌います。我が子に勉強の出来ることを求め、出来ない駄目な子と評価します。運動神経が優れていると喜び、そうでないと鈍くさいとバカにします。子ども達は大人の価値判断に少しづつ染まっていくのです。

赤ちゃんの時のことを思い出しましょう。念願の子を授かったときの喜びは何ものにも代え難いものであったでしょう。この子が生まれてくれたことだけで、最大の幸せでした。この子は家の中の太陽でした。ところが少しづつ事情が変わってきます。保育園時代はそんなに大きく変わりませんが、小学校頃から成績がつけられると親の見る眼が、いい成績の時とそうでない時で、変わってしまいます。学校のテストで自分が判断されてしまうからです。賢い・バカという価値判断です。この子が生まれたことだけで喜ぶことが出来たのが、いい成績をとらないと喜ぶことが出来ないに変わってしまいます。

保育園の子ども達を見ていると、この大人社会の厄介な世界から解放されます。男の子も女の子も障がいを持った子も全く同じであるという平等の世界を生きています。これは仏さまの世界のことです。私達大人は自分で作り上げた価値観によって苦しんでいるのではないのでしょうか。賢い子もバカの子も一緒だと言える世界があるんだよ。それを仏さまの世界といい、その世界は保育園の園児達が教えていてくれるのです。

花祭り写真コンテスト

五月二十六日にお釈迦様のご誕生をお祝いする花祭りが本堂で行われました。子ども達の少し緊張しながら、手を合わせている姿はまことに素晴らしいものでした。本堂でのお参りが済んだ後、市中パレードに移りました。今年より、市長さんのご厚意により警察署で歩行者天国の許可をいただくことが出来ました。そこで市中パレードの写真コンテストを企画しましたところへ年長児のみ)、二十一点応募をいただきました。写真応募していただいた保護者様に投票券を持っていただき、六月四日運動会参観日終了後、本堂浜縁で投票を行いました。その結果は次のようです。

- 一位 坂田竜馬様 (心覇)
- 二位 田口大樹様 (煌芽)
- 三位 馬場進一様 (莉音)
- 渡邊正人様 (莉衣奈)
- 加藤孝典様 (結愛)

おめでとうございます。景品は次の業者様から提供いただきました。

- 株式会社ジャクエツ様
- (株)フレーザー館 岐阜支店様
- 株式会社チャイルド社様
- (有)岐阜よいこのくに様
- ひかりのくに・モリ教材社様

保護者会の役員さんにお手伝いいただきました。ご協力いただきました皆様に御礼申し上げます。

一位 坂田竜馬様作品の心覇君です

